



1冊
600
259



軒遇ハ情地あり。荒磯ヶ塚より。親兵衛點頭て阿弥七を近付。是は
 兄の塚に冥是を祭るべし。我も廻向をせられ先阿弥七を拝す。然而清澄と共侶
 揖して目礼てけれ。高宗以下の士卒は。次國太卿に至るまで。俱くその塚を朝
 ひて。合掌念佛せざるものなけれ。阿弥七は只辱さる坐。感涙の拭む。覺き其頭を仰り。
 良民に威感激して鼻立ち。拂れ老も弱も。涯のあれ。竟に逝く身。忠義の與。悠の
 命と捐て。榮と見孫。貽ふ。死映ありと思ひ。悠而荒川清澄を親兵衛と共
 侶有功の諸士を領。城正。聽集會を登時清澄。親兵衛席を譲んと。町
 寧に請け。親兵衛敢て。詞意迫る。論を。燕毛。序を。我九歳の
 総角也。荒川主。大父。又尊卑。の。荒川主。討隊の大將。即館の
 御名代。我臨時の副將。然る。功あり。席を。宿老。獨茂。如。彼。の
 是。是。君侯。大。敬。僭。稱。是。其。甚。決。を。從。と。推。辭。と。清。澄。推

禁めて。理論。定。然。る。軍。旅。の。序。次。ハ。非。常。功。あり。者。ハ。上。在。功。あり。者。ハ。下。在。
 在。と。那。剛。臆。の。坐。の。如。後。三。年。合。戰。の。序。次。ハ。開。と。職。分。の。等。否。も。序。次。を。做。誰。
 又。命。と。惜。も。各。主。君。の。死。與。後。の。戰。功。を。勵。ん。思。老。賊。徒。誅。伐。の。仰。と。景。され。ど。
 寸。功。を。因。て。重。て。館。と。和。殿。を。征。伐。を。命。せ。れ。立。地。ハ。大。功。あり。傳。れ。主。客。地。と。易。今。
 日。討。隊。の。大。將。ハ。大。江。則。和。殿。也。思。老。當。副。將。と。傳。れ。席。を。譲。ると。和。殿。ハ。
 于。て。非。礼。あり。誰。僭。稱。と。い。え。然。と。謙。退。せ。れ。始。思。老。と。差。殺。さ。れ。我。
 意。不。儘。と。い。ふ。親。兵。衛。兼。引。と。云。云。と。論。争。ハ。果。然。高。宗。逸。友。雙。
 方。と。推。制。め。相。和。解。て。大。江。氏。の。謹。慎。ハ。臣。者。の。本。に。あ。べ。く。荒。川。主。の。謙。遜。辭。讓。ハ。
 世。の。家。宰。の。龜。鑑。と。い。ふ。我。們。證。人。に。枉。て。且。同。席。と。す。事。と。議。と。益。死。
 辭。讓。時。を。得。さ。不。便。あり。め。と。友。勝。良。干。及。逸。時。も。景。能。も。共。侶。勸。め。
 於。親。兵。衛。竟。已。と。清。澄。と。共。上。座。在。是。より。言。同。宗。逸。友。有。功。の

諸士次第と追て左右両側の羅列れる。但孝嗣と次國太門の家臣の列の中、内れは故意
遠侍の在る當下荒川清澄の親兵衛と商議して稲村龍田の両大城へ妖賊伏誅の趣を
大に親兵衛が大功を首めり。友勝良干高宗逸友景能逸時們が忠戦又政木大全
孝嗣と次國太卿三が親兵衛の従ひ來て軍功あり。其の顛末を來歴に寫し載る。
準備亟に整ひて家老諫の番士より。那艱内兼四郎も這回清澄の從令陣中
在るものと隨即件の兼四郎と詰茂嘉橘の使を課て先稲村へて遣さる。親兵衛も亦
自呈書一通を書寫して昨日照文の借用ある。兩個の夥兵を使ひ達して俱小君所へ
まゐりせける。余程の清澄の殿臺を守らる。士卒と城の召取入へ。那里に要る陣營の
毀ちと神領を掃除せり。且乙接村の阿弥七們及素藤の馳入れる城内の良民と女母と
出遣りて各家を還えんと。猛可に士卒と部老て是等の所要といふを。高宗逸友

頭人より。さるる中て窮民の賑給の受けるも。親兵衛懐へて清澄の勸めて施
しをいそぐ。清澄頭より。ち掉りてその美ハ愚老も豫より心屬するもの。是れ
藤原を追放の折這館山の城の。和殿より。城主のされ後亦亦番士と居れて重要
金もの。糧米より。皆是上の。東西より。素藤が復叛し及て他が掠奪を。さるる
い。さる下知。依らる。窮民と賑。る罪。は。所。親兵衛推返
る。晩生。口。に。孺子とて。悠。鳥。許。る。思。不。忠。似。抑。歳。豊。凶
中。國。治。乱。る。を。民。の。凍。餓。を。救。せ。る。是。仁。君。の。善。政。を。開。く。奉。る。吏。人。の。自
禄。を。思。ふ。民。と。意。と。せ。事。の。行。な。る。分。量。授。與。時。日。侵。り。六。日。の。昌。蒲。の
做。る。の。通。病。の。識。者。の。浩。嘆。の。在。り。這。城。附。の。米。錢。を。あ。ん。下
知。依。ら。せ。て。施。さ。る。か。さ。る。免。る。餘。は。都。て。素。藤。が。民。を。掠。め。て。積。り。東。西。今。を
あ。も。散。ま。る。良。民。家。を。還。る。も。何。ぞ。て。明。日。の。露。の。命。を。敷。糸。を。以。罪。を。な

獨仁が上にあつて願ふ賢老、轍鮒の危窮を救ふて上の仁政を普く民に知れし玉
 へと詞を盡し諫め、清澄言下の感服して遂にその議を儘し、良干逸時景能の
 當時城附の米穀金錢の多寡を問ひ勘辨せし倉庫より用ひ餘財餘分の米
 穀を賑給送せしめ、阿弥七並良民の天の給ひ地を喜び、擔ひ運てそがへ
 白く舊所不安堵せしける然れ又親兵衛の是等のゆゑ管らして憶せ逗留三日及びて
 四月十五日あるめり、けふも尚事の遅く退くを急ぎ、一かの日晡時の左側に向水五十
 三太と枝獨鉆素吉の生拘の賊徒二十餘名と乾兒の牽き、俱に館山城の東へ
 親兵衛並逸時景能の報る可く、小可毎釣束のて、船を那這の浦曲り、歌て大江まで
 等なり、一か大前の夜より、今日までも這城類の落人の津と求る者より、船に
 乗せて毆伏せ、捕縛り、二十餘名の、餘剛て、不達、矢場、海へ推し、下て
 殺し、るもの、い、親兵衛逸時、時、の、掙を、讀め、芳、い、と、清澄、き、く、清澄

則難兵、生口毎と受會し、其本来、責、問、答、他、們、都、願、八、盆、作、豫
 兵、年、来、虎、狼、の、威、を、借、り、良、民、を、虐、け、る、暴、惡、分、明、る、日、に、緊、く、獄、舎、に
 敷、せ、け、る、然、れ、又、清、澄、向、水、五、十、三、太、弟、兄、の、日、親、兵、衛、們、を、送、る、け、る、事、の、趣、に
 既、逸、時、景、能、お、つ、る、今、又、賊、徒、と、生、拘、り、て、多、く、牽、り、て、獻、さ、る、任、俠、宜、く、賞、金、を、下
 し、五、十、三、太、素、吉、乾、兒、們、の、賞、金、五、十、苞、合、も、さ、う、を、言、示、し、て、二十餘疋の馬を馳せ
 浦邊まで遣り、五十三太の、船、を、拜、し、て、能、り、お、ん、と、せ、折、り、親、兵、衛、急、に、吸、返、し、て
 我、れ、又、投、方、お、つ、復、汝、達、が、船、を、乗、り、て、甘、舊、路、へ、還、ん、と、欲、を、恩、給、の、米、い、も、乾、兒、們、が、船、を
 分、ち、載、て、家、路、へ、遣、り、ね、汝、達、の、船、を、歌、て、必、し、我、を、お、ね、か、と、い、ふ、五、十、三、太、素
 吉、們、の、果、を、退、け、る、當、下、又、親、兵、衛、孝、嗣、次、圖、太、と、商、量、を、却、清、澄、不
 別、を、告、ぐ、お、ん、と、い、ふ、を、清、澄、制、り、て、談、さ、る、御、向、の、い、と、さ、る、和、殿、へ、這、回、も
 大、功、を、館、の、見、参、入、れ、と、那、地、へ、と、ろ、放、ち、遣、し、且、改、木、生、の、賊、の、頭、人、淺、木、碗

九郎と敷の補て素藤素素と撰る。その功和殿の亞あり及次國太卿之も俱不是軍
功あり和殿稻村へ伴ふて上る重用あるべし。その功和殿の亞あり及次國太卿之も俱不是軍
政本石龜們のりも晩生只顧薦めか。他七士先んて仕途お益す。彼等
その功和殿の補て素藤素素と撰る。その功和殿の亞あり及次國太卿之も俱不是軍
退かて逆旅の赴けり。不更又妖賊對治の御教書と成下され。その功和殿の補て素藤素素と撰る
おも西國河へ相違ふとせられ。隨即征伐を先んて。賊徒と討も夷けり。邊莫七士
士と招會の先命は。果さる。開と照文與四郎。不任せとある。仰の言を。且御向口王書と
り。その功和殿の補て素藤素素と撰る。その功和殿の亞あり及次國太卿之も俱不是軍
們先んて。因恩賞とぬき。飲せ。意お自餘の七士。必結城。來會あり。大法師の
蒼お在るべし。本月十六日の法會あり。今日より只一日の途を。速めて期不値とも。その路次
までも。迎て。君命を達す。妖賊既。對治せられて。當城無異。民安けれ。晩生。茲。在

ら。とも賢光正。上。は。在。且諸勇士の羽翼。され。事。缺。る。も。い。と。の。ひ。は。雍。龍。の
王。と。合。ふ。と。清。澄。お。これ。を。遊。與。て。お。の。王。の。後。か。又。用。る。と。あ。る。と。い。う。一。政。木。狐。の。誨。お
で。お。の。義。を。上。へ。い。ね。晩。生。へ。一。路。兒。們。と。俱。に。解。纜。と。い。ふ。べ。願。の。海。容。あ。れ。か。と。詞
急。迫。く。本。意。と。舒。く。住。る。も。あ。る。と。い。う。清。澄。連。の。不。感。嘆。て。適。愛。と。忠。魂。義
胆。誰。う。九。歳。の。童。子。と。い。ふ。然。る。も。主。意。決。す。今。は。争。何。せ。七。士。と。相。伴。ふ。と。
帰。参。し。今。より。参。ん。の。と。忘。る。一。霎。時。退。て。却。高。宗。逸。友。と。共。侶。お。出。て。來。折。乾。金
十。兩。と。寫。し。た。る。三。裏。衣。と。親。兵。衛。お。替。へ。て。お。大。江。主。と。お。義。義。を。お。老。拙。か。餓。別
多。る。お。の。三。裏。衣。大。全。氏。と。石。龜。屋。贈。り。欲。を。和。殿。の。人。々。の。戰。功。稻。村。へ。お。え。さ。へ。
賞。禄。莫。大。と。い。ふ。お。下。知。と。お。言。は。れ。け。れ。い。の。私。情。を。表。す。の。と。い。ふ。高。宗。逸
友。の。三。裏。衣。と。推。找。め。俱。に。別。を。惜。し。け。り。當。下。親。兵。衛。へ。三。裏。衣。と。曲。々。お。受。戴。せ。り。一
裏。と。推。返。し。て。清。澄。お。答。る。や。美。情。辱。く。い。と。も。晩。生。の。比。稻。村。より。首。途。の。折。上。の

賜りし金を。路費匿く。ゆゑは。終に預け。る。但。大。全。と。次。國。太。と。浮
浪の。人。も。義。士。で。い。は。れ。を。輒。受。づ。然。と。き。返。り。ま。う。長。者。の。好。意。
破。る。に。似。う。因。て。晚。生。收。め。措。つ。折。を。り。傳。達。せ。り。去。向。を。い。ふ。に。餘。談。を。異。日。歸
參。の。折。の。終。ひ。も。聲。を。て。身。の。暇。を。あ。り。ね。と。い。ふ。遠。く。応。答。件。の。十。金。三。裏。と。懐。け
夾。め。退。り。て。程。上。に。処。を。考。嗣。次。國。太。卿。三。より。告。げ。伴。を。立。去。ん。と。せ。程。上
清。澄。高。宗。逆。友。に。赴。携。り。袂。を。掖。り。い。ふ。理。の。な。れ。も。留。別。の。不。要。後。を。り。と。と
薦。め。と。欲。せ。一。要。時。住。り。ぬ。か。と。い。ふ。閑。逸。時。景。能。も。共。侶。の。走。來。て。浦。邊。の。船。ま。で
送。ん。と。て。前。に。立。後。に。携。り。て。放。つ。く。も。あ。り。と。親。兵。衛。聽。き。頭。と。掉。り。て。平。安。を。異。の
折。る。に。柵。と。執。ね。水。と。決。り。送。り。の。身。を。致。さ。る。妖。賊。俘。囚。の。り。ぬ。と。い。ふ。も。残。燼。の。も。冷
る。に。願。ひ。各。宿。老。を。助。助。て。當。郡。と。理。め。ぬ。私。情。今。の。急。務。は。あ。る。と。論。り。て。毫。も
從。つ。卒。と。い。ふ。考。嗣。們。目。と。注。し。袖。と。拂。ひ。て。飄。然。と。て。出。る。程。上。考。嗣。次。國。太

卿。三。の。邊。へ。清。澄。們。別。れ。の。礼。を。盡。し。も。果。ぞ。と。外。面。に。立。出。て。後。れ。と。も。親。兵。衛。
赴。々。俱。に。從。ふ。吉。最。酷。う。急。迫。と。い。ふ。清。澄。並。に。諸。士。們。徒。然。と。目。送。り。け。り。
悠。而。大。江。親。兵。衛。の。考。嗣。次。國。太。師。弟。と。い。ふ。館。山。の。城。を。去。り。浦。邊。に。投。り
い。ふ。程。上。長。月。の。日。其。春。果。て。望。青。の。影。隈。も。あ。り。磯。山。の。磯。に。迷。ひ。も。せ。既。に。と。船
も。五。町。許。の。あ。る。と。思。程。上。素。も。吉。が。蕉。火。を。振。照。し。て。迎。ふ。來。ぬ。逢。ひ。け。り。登
時。素。も。吉。の。伏。家。の。船。三。艘。恩。給。の。米。を。分。ち。載。て。剛。才。か。下。遣。と。告。て。そ。の。終
先。に。立。て。故。の。浦。曲。に。案。内。を。ま。大。家。他。を。勞。ひ。て。い。ふ。路。次。を。い。ふ。夜。酉。半。刻。の。左
側。の。一。船。に。乗。り。の。船。五。十。三。太。心。と。用。ひ。夕。饌。の。設。あ。る。小。程。五。十。三。太。今。戸
火。盤。柴。折。り。燒。き。乾。兒。の。高。士。と。給。事。の。達。し。て。親。兵。衛。以。下。の。客。人。の。飯。を。差。
る。と。せ。程。上。親。兵。衛。五。十。三。太。弟。兄。の。這。里。より。水。路。を。結。城。へ。赴。く。遠。近。を。問。試。し。い
五。十。三。太。答。て。然。い。江。戸。より。結。城。へ。十。六。里。あ。り。の。浦。より。西。國。河。ま。で。既。に。知。せ。ぬ。と。い。ふ。

一夜まゝと到る。遮莫兩國河を遷る。迂遠と路損あり。因て行徳浦に赴
け。荒河を瀬り。関宿より陸路を走ら。結城まで八里。荒河を漕ぐ。船の找むと
遅く。急なれど有敷。不覚なるは。この八個の者。毎に腕の涯り。擇んで。明日亭午の
下總より。関宿へ漕着て。最も日長。時候する。陸地を。結城に到着疑
ひ。と。親兵衛。執て。その議を。然る。然る。然る。隨ひ。高工。門。を
建列。その通宵。漕ぐ。果して十六日の曉。天。行徳の浦。來まけり。越。姑。且。船を
歇て。高工。門。の早飯。炊て。登時。親兵衛。孝嗣。と。次。國太。門。の清澄。の意を。傳
へ。贈れる。金三匁。と。合。分ち。薦め。の。金。些。少。ある。れ。窮民。賑給。の
東西。あ。又。我君。の賜。あ。只。那。翁。が。錢。別。と。られ。そ。那。折。告。知。必。や
推辭。れ。然。言。數。多。く。て。人の。志。の。空。ある。と。思。ふ。と。預。置。む。唐。山。前
漢。の。韓。信。の。身。會。かり。時。漂。母。の。食。受。る。と。世俗。の。と。く。知。る。の。金。本

意。あ。と。漂。母。の。飯。勝。る。願。ひ。收。め。明日。の。路。費。用。ひ。と。諭。せ。我
孝。嗣。も。听。て。を。思。ひ。我。和。殿。の。從。之。附。驥。の。小。功。ある。と。國。主。忠。と。盡
み。あ。と。荒。川。翁。の。與。も。只。義。の。一。字。と。思。ふ。と。和。殿。の。幫助。ある。と。那。翁
も。贈。ら。東西。あり。と。受。と。和。殿。の。意。と。猜。ひ。て。受。て。我。の。贈。る。と。則。和
殿。の。財。物。と。あ。と。推。辭。か。と。辱。け。と。恥。て。偏。を。と。う。け。孝。嗣。か。の。と。う。れ。次
國。太。も。亦。辭。ひ。と。演。受。戴。て。俱。金。と。收。め。後。而。早。飯。果。と。五。十。三。太
素。の。吉。高。工。母。亦。復。船。と。走。ら。荒。河。漕。入。れ。現。瀬。る。船。を。執。ひ。始。の。と。る
ら。遮。莫。伏。姫。神。の。眞。助。と。あ。思。ひ。と。早。と。午。の。時。に。関。宿。の。邊。に
來。れ。親。兵。衛。の。勒。肚。より。圓。金。十。兩。合。を。と。これ。を。五。十。三。太。素。の。吉。高。工。母。と。
あ。瑣。細。る。東西。と。折。周。合。を。と。這。回。和。郎。門。の。幫助。と。思。ひ。隨。る。幸。ひ
と。う。その。折。の。寸。志。と。異。日。船。路。を。安。房。と。逸。時。門。を。訪。ひ。と。折。我。も。再。會。せ

きよすきとて、そのとらふべきものなり。清澄の更なる人馬を救ふ。友勝良干、逸時景能、其の稲村へ凱陣を然る素藤、宗徒の兇賊と檻車より乗、旗号羅羅、昇て真先を牽ける。勢ひ苛めり。其の巷街の人の山と成て、観る者、元満、徳而次の日、清澄、稲村、掃城、義成、朝臣、見参。大江親兵衛が大功の事の趣、政木孝嗣、石龜屋次、園太郎、弟向水五十三、太弟兄の事、及孝嗣、舊縁、政木親忠告の事の顛末、又荒磯、南弥六が弟阿弥七、三男増松の事、及南弥六が首塚の事、又親兵衛が靈王、其の城、地道、石、壁、兵火、守屋、柱倒れて、獄舎の傍、子と推して、友勝良干、其の事、本膳盆作、と虜、あける、為、体、又親兵衛、仁の字の靈王、御前、大母、妙真、許罪、船、乗、思、折、忽、然、と、蜚、返、り、來、て、親兵衛、懐、入、り、又、照、文、の、兩、國、河、原、を、料、親兵衛、逢、ふ、と、御、書、と、遞、與、仰、と、傳、ふ、那、身、の、結、城、赴、け、事、又、親兵衛、自、餘、の、七、大、士、を、相、迎、て、共、侶、の、か、り、ま、わ、ん、と、葉、四、郎、伯、の、還、る、を、告、げ、十五、日、の、下、哺、孝、嗣、次、園、大、師、等、

俱、水、行、下、總、赴、け、心、操、眼、前、見、る、事、も、の、崖、を、上、り、妙、椿、狸、の、奇、に、皮、と、龜、龍、の、玉、と、を、ま、る、を、這、狸、見、の、箇、様、々、と、昔、年、龍、田、近、郎、を、八、房、の、天、と、子、養、け、事、の、始、り、玉、梓、が、餘、然、那、身、の、貴、縁、を、當、家、の、出、立、を、做、し、政、木、親、兵、衛、が、告、ぐ、と、奇、談、の、顛、末、開、く、靈、王、の、威、徳、の、由、り、玉、梓、が、餘、然、解、脱、し、妙、椿、狸、の、即、死、を、け、る、亡、骸、の、中、の、如、是、金、甕、生、發、菩、提、心、の、八、字、見、れ、事、皇、上、の、先、の、政、木、親、兵、衛、の、野、原、を、狐、龍、化、て、升、天、の、奇、特、を、漏、さ、る、告、宣、を、義、成、主、の、事、毎、お、驚、奇、感、嘆、大、き、身、邊、の、俗、家、老、近、習、の、俱、の、側、聞、く、駭、嘆、せ、る、の、多、く、耳、新、き、を、思、ひ、け、且、て、義、成、主、の、清、澄、の、宣、を、妖、怪、賊、徒、一、時、亡、び、當、家、主、を、奉、奉、の、至、る、則、大、江、親、兵、衛、の、神、の、宣、助、を、ま、る、の、亦、敵、を、厭、を、寛、の、一、字、を、守、る、の、事、を、主、卒、と、損、れ、る、全、勝、の、事、を、龍、田、の、條、々、と、入、詳、の、宣、上、よ、然、と、秘、ひ、あ、ら、る、先、友、勝、良、干、逸、時、景、能、を、召、さ、し、て、見、参、を、饒、り、久、き、

杉倉氏元奉りて即便仰せ給ふ。武士者時運よき勢ひ竟りて敵の爲に擒とらは
るる恥はふ似て恥はふあるは浦安牛之助友勝登桐山八郎良干の神火の真助獄く
舎しやと名ある賊徒を生拘りて會秘曾の恥と雪めし事本奇特と思召さる宣々本領城
安堵也。又田税戸智九郎逸時吉屋八郎景能の城を奪て命を免れ罪を他郷に避
たふ饒にされたる越度あるも今番大江親兵衛の從て多敵城に入て火を放ち且仙麻嘉
六を相殺ころすもあける。又その前夜西國河より親兵衛を送る番折平三太と相計り快
船とて東の面敵地近なるより舊親兵衛の口書あやめて恩免を請ふる依り
則この忠戰をりて那先非償給ふ矢館山の城の頭人を罷られて其餘の舊の辰岡
は清澄に従て薩田まゐる。老侯の礼を景上と仰渡さる。友勝良干逸時
景能の恩命と拜と退りぬけり。今程荒川清澄のまゝ私宅とてる。件くだの四
士と伴て馬を早め薩田詣て義実朝臣見参。大江親兵衛が天功素藤們伏

誅都々稲村殿おぼえ上る。條々一事も漏さず告景上。妙椿狸の奇淫皮と薩藤の玉を
由來と解て憲賢へ備へる。義実主の歎ひと又敬篤も大なる王と皮と亦肉とて原來那妖
尼の昔八房の天と子類ける。富山の牝狸であける。那折我の尚壯年とて件くだの天と愛する。ま
狸とて字の太く從ひ里を從て下る。あれは里見の天とて前兆ありと賢達で戯語と思ひけれ
悔くの恥に批言是疎幽る。狸の古字の多小從とて大小從の後の多。今も猶通
用也。況玉梓が餘怨賞縁りて當家は祟と做す。神を一身の知るより。亦我口の
過るに多。今玉梓が餘怨解脱の折多。狸見も其命終り。その亡骸の毛の中。經
文の偈句見れ。正ふ是親兵衛が持る靈玉の奇特也。畢竟役優婆塞の方便利
益ある。狐龍の忠告違ふ。然るに洲崎の巖実代香の使者とあふ。又這
妙椿狸の皮の逢坂の関のある。と栄花物語の巻。小ある。那閑寺の平佛の例もあれ。
多。華慢けまんの爲とる。大山寺寄捨せんと。死後方ゆる。小湊目と鮎船目六郎を

召近つて。悠々と吩咐て度と目預り。西個の近習いある結果て遽に退ける。
現老候の仁心ある仇は報ふ徳とてある。玉梓並に妙椿狸の喜提すも吊をえ玉
あ。世有る賢君と清澄特に感服と却友勝良干。逸時景能。稲村殿の
仰より。まありとせよ上れば義実王點頭ぬて。航件者毎身邊近き召
よせ。今番の軍功と讃め。御高威の虜せられ。城に没落ある其頭の事の
問ふ。但論のやう。若達もあて。竟功績の愛。神の擁護と大江仁。結
助あり。より。ふま。あね。神佛と。思ひなり。親兵衛を総角と。必る
侮り。若達年歳を。増も。考れ。才幹の及。志を。励。仁。少。勉。
か。一。大。士。の。這。里。在。る。妖。賊。都。て。俘。囚。する。異。日。八。大。具。足。て。俱。安。房。殿。を。見。る。
佐。け。必。し。東。の。八。個。國。敵。る。意。件。の。大。士。の。安。房。殿。の。寶。目。を。見。る。
他。們。の。所。藏。の。靈。玉。と。又。何。を。異。る。今。番。仁。上。總。より。結。城。赴。る。七。大。士。を

伴。必。し。の。ま。あ。べ。我。大。士。と。企。て。既。久。く。宣。ひ。何。々。と。ち。笑。ひ。て。若
達。軍。旅。の。疲。勞。あ。る。老。の。言。言。益。な。る。べ。と。能。り。ひ。と。龍。龍。の。玉。と。清。澄。の
返。て。暇。あ。り。友。勝。良。干。父。の。逸。時。と。景。能。の。一。唯。々。と。兼。事。る。昔。の。汗。の
流。る。と。賞。志。額。小。席。薦。の。跡。印。を。思。ひ。退。ける。是。より。逸。小。一。兩。日。と。歷。て。稻。村。の
城。内。の。素。藤。們。を。誅。戮。の。沙。汰。あ。り。浦。安。牛。助。友。勝。登。桐。山。八。良。干。実。檢。使。と。奉
で。難。兵。一。百。名。と。從。て。素。藤。並。願。八。金。作。本。膳。狼。之。介。們。を。長。須。賀。多。申。明。亭。の
牽。出。て。再。度。叛。逆。の。罪。戾。と。悠。々。と。言。示。て。皆。悉。斬。畢。て。却。碗。九。郎。麻。吉。六。が
首。級。を。俱。小。鼻。首。せ。れ。を。觀。る。者。堵。の。と。肩。と。比。袖。と。列。ね。日。毎。間。斷
る。け。の。詰。朝。義。成。主。の。正。廳。あ。る。四。家。老。杉。倉。堀。内。の。宣。言。這。回。妖。賊。征。伐。の
折。清。澄。高。宗。逸。友。們。の。餘。も。有。功。の。士。卒。と。せ。け。第。一。の。功。臣。大。江。親。兵。衛。を
結。城。へ。送。り。這。里。在。る。目。今。賞。と。仍。由。り。あ。る。他。と。同。じ。賞。禄。と。を。給。ふ。本。と

臥る。巫の役も達する。左右程。黄昏時候より。漸く風軟。且追風。あつと。さる。れ。も。與四郎。が。伴當。の。心。地。死。ぬ。覺。る。と。飯。の。准。備。の。茶。と。薦。ら。ま。て。も。甲。斐。る。迄。不。果。敢。々。と。飲。さ。し。け。れ。只。得。陸。の。杖。登。り。這。津。は。客。店。に。留。め。將。息。さ。せ。て。下。總。へ。お。も。を。當。工。們。が。還。る。比。ま。で。他。が。病。着。稍。瘥。く。稻。村。へ。送。り。か。せ。と。店。小。二。人。保。を。委。ね。て。又。與四郎。の。邊。へ。船。を。乗。る。程。既。に。日。の。暮。ら。く。て。あ。る。時。候。より。風。の。宜。し。き。當。工。們。の。船。と。漕。出。り。市。川。を。投。て。走。る。程。十。三。日。の。朝。船。果。て。這。里。欲。と。思。ふ。市。川。の。大。江。屋。の。河。岸。に。来。り。け。れ。與四郎。の。當。工。們。を。勞。ひ。那。伴當。の。事。も。あ。ら。う。な。る。が。仍。裏。に。自。引。提。げ。船。より。出。れ。當。工。們。の。そ。の。傍。漕。戻。り。安。房。を。投。て。い。き。程。當。晚。又。上。總。へ。水。更。津。の。船。と。せ。て。當。工。二。兩。名。陸。に。登。り。那。客。店。に。赴。き。與四郎。が。留。め。置。く。伴當。の。安。否。と。訪。ふ。巫。の。瘥。り。果。て。も。あ。ら。う。然。れ。ど。幾。も。休。て。あ。る。が。あ。ら。う。と。駈。り。て

出。り。船。を。載。よ。安。房。へ。還。り。と。い。ふ。より。杖。け。て。船。を。う。ち。載。て。次。の。日。の。曉。天。の。安。房。の。宿。所。に。歸。着。あ。ら。う。隨。即。稻。村。の。城。へ。と。告。ぐ。伴。の。病。人。を。城。内。へ。返。り。け。れ。是。の。時。與四郎。の。風。波。の。障。り。あ。り。と。い。ふ。も。恙。も。な。く。て。市。川。へ。昨。日。着。到。あ。ら。う。の。稻。村。の。城。へ。ゆ。え。け。り。然。れ。ど。伴。の。伴當。の。約。莫。一。句。許。を。稍。起。さ。し。と。い。ふ。時。日。遙。く。歴。々。け。り。又。與四郎。が。迹。と。赴。き。下。總。へ。い。き。有。司。們。も。亦。與四郎。が。幾。も。市。川。に。在。る。と。い。ふ。伴當。を。又。那。里。へ。と。遣。さ。し。と。推。量。し。始。り。と。い。ふ。と。其。の。言。及。び。只。只。田。の。音。音。們。の。水。路。の。障。り。を。恙。も。な。く。と。い。ふ。與四郎。が。上。箇。様。々。と。具。に。告。ぐ。知。せ。り。音。音。鬼。の。單。節。們。の。驚。き。且。歎。び。て。日。數。程。経。ぬ。旅。る。と。市。川。の。の。ち。の。事。も。ま。は。り。還。る。日。を。待。て。と。思。ひ。け。り。間。話。休。題。余。程。と。與四郎。が。那。日。依。々。分。宿。所。に。赴。き。姓。名。を。告。ぐ。對。面。を。請。ひ。折。り。東。人。依。々。の。荷。船。の。上。乗。あ。り。江。戸。へ。赴。き。女。房。水。漕。の。香。華。院。へ。基。參。ま。と。い。ふ。留。守。吏。耳。の。と。疎。る。新。

炊の老嫗のそとて。高工。一個も在ざりければ。何を向ふても外々。已に。あつた。さうさ。と。
與四郎の親兵衛の這里。あつた。不意と。目今。知る。由。あつて。心。頻。り。あ。焦。燥。と。東。
人の妻の還り。あつた。さうさ。外。は。術。あつた。と。尋。思。と。あつた。さうさ。あ。其。首。と。漫。わ。て。
復。て。あ。め。と。期。と。推。退。て。あ。の。御。の。神。社。佛。閣。を。持。ん。と。欲。さ。る。さ。都。會。の。地。
あ。ね。火。場。古。迹。の。親。る。さ。う。只。幾。番。も。大。江。屋。の。門。邊。と。過。り。と。觀。入。る。小。老。
媼。の。そ。と。て。寂。寞。さ。う。左。右。さ。る。程。小。亭。午。あ。つた。さ。の。時。亦。復。あ。つて。向。あ。依。介。の。妻。
水。濤。の。方。繞。歸。宅。の。折。る。れ。邊。く。出。迎。て。先。與。四。郎。と。客。房。へ。請。登。一。名。對。面。
あ。そ。茶。と。看。め。る。と。あ。そ。管。待。特。小。流。る。と。六。松。富。山。は。親。兵。衛。と。衛。守。れ。値。
遇。の。縁。さ。る。隨。ひ。ひ。出。る。さ。の。歎。ひ。を。演。る。程。依。介。も。亦。か。へ。あ。つた。思。ひ。ける。さ。賓。客。と。
與。四。郎。と。さ。う。船。の。揚。荷。を。高。工。們。に。任。し。て。衣。脱。更。く。對。面。を。送。の。口。誼。果。
る。さ。歎。ひ。ひ。出。る。さ。あ。つた。登。時。又。與。四。郎。の。東。人。夫。婦。も。ち。向。ひ。今。番。稻。村。殿。

仰。あ。り。照。文。と。共。侶。の。親。兵。衛。と。召。復。さ。る。さ。あ。使。を。奉。り。送。の。去。向。を。異。ふ。と。水。
路。と。あ。ふ。索。求。め。る。事。の。端。より。風。波。の。障。り。遲。滞。の。支。の。地。の。親。兵。衛。を。舊。
里。に。立。寄。り。て。あ。つた。歎。ひ。と。思。ひ。單。り。事。の。情。と。云。と。告。知。さ。る。れ。依。介。も。亦。
親。兵。衛。の。皇。義。あ。の。地。か。り。來。て。數。日。逗。留。の。支。の。趣。且。昨。の。朝。未。明。の。辭。と。當。
所。を。立。去。り。隄。地。の。結。城。の。大。本。營。と。訪。り。必。七。大。士。の。逢。ふ。の。あ。つた。さ。去。向。成。
い。そ。れ。あ。つた。報。れ。與。四。郎。歎。ひ。と。あ。つた。便。宜。と。さ。う。恨。る。所。の。我。船。の。始。り。
順。風。を。沿。て。昨。日。早。日。あ。の。地。の。對。面。輒。さ。う。一。期。の。値。さ。る。と。悔。い。け。非。
如。結。城。の。七。大。士。の。來。會。せ。る。と。あ。つた。さ。大。江。の。和。子。の。十六。日。さ。う。那。里。に。在。る。と。疑。ひ。
る。既。に。去。向。を。知。る。と。あ。つた。さ。長。坐。の。益。さ。う。今。より。結。城。へ。赴。く。と。あ。つた。依。介。推。察。
め。と。さ。又。酷。く。性。急。と。今。日。の。中。の。三。日。あ。つた。明日。朝。立。あ。つた。と。十五。日。あ。つた。と。さ。
那。里。に。到。り。あ。つた。さ。定。め。ら。れ。た。賓。客。と。只。の。終。の。還。り。と。和。子。の。知。れ。る。事。何。の。



へくあふざれい心單々感て已まき。當晚良人の還る事候と告る。依介も
 亦與四郎が大方ある誠心を只顧感佩あるける。是後の話は余程與四郎の
 いそぐ水濤別を告て依介が儲の船から乗る折は尚暗れと兩個の篙工は依介
 も力と勤し漕ぐ程月落て鴨いさ啼ね。明き天のさ河の潮り色く船を
 三挺舟約十町あまのりや來ぬ。思ひ東きぬく。悠而る日の下。睡め
 船の関宿小果一と與四郎の依介の船を演相別れ。獨陸地をいそぐ。幾ふ
 一里許小と點燭時候あり。今宵の堺の驛る客店小杖を駐め。明るを遅
 くと立出。連り路次といさる。結城まで七里身い老れども尚健少歩の運い
 境る。その日未牌の左側の結城の城下小あされ。大法師の草庵と里人們の尋
 問ふ。知れりといふ者あり。且訝り且問ひ。最長ある城の町を素不娯て。程ふ
 忽地後方人ありて。開け。焼雪主とて。住る。後。咄々と聲高き。喚被

ゆ。與四郎急あられ。是則別人。豫面善れる。照文が這回の伴當。己れ
 與四郎心欲びく。遠く菅笠を脱て。引提。程も。那僕を走着。小腰を
 折。元然。與四郎告る。主とて。十一郎。這城の町る。歇店。在。老爺。れ
 過。せ。あ。を。を。吸。あ。せ。と。い。れ。る。兒。迎。あ。り。あ。る。卒。受。と。先。小。立。上。吉。入。の
 便宜。與四郎の事。と。旁。ひ。て。仔細。と。越。え。同。及。び。を。案。内。儘。と。昔。路。へ。立
 復。る。一。町。許。照。文。が。宿。と。せ。歇。店。の。あ。り。來。て。ま。ま。店。の。白。壁。小。衆。屋。を。寫
 た。矮。樓。見。の。一。座。棟。と。悠。而。與四郎の草鞋と脱。捨。脚。を。濯。ぎ。て。店。の。傍。り
 軀。て。矮。樓。の。上。登。り。照。文。の。這。里。在。る。宿。の。姉。嬢。が。汲。り。く。來。ぬ。茶。を。與。四。郎。の。薦
 め。る。外。の。同。宿。の。客。も。き。次。の。間。の。照。文。が。野。兵。伴。當。の。ま。居。り。け。け。登。時。與。四
 郎。の。合。笑。る。照。文。の。向。ひ。く。最。早。う。一。登。崎。主。在。下。の。首。途。の。折。那。船。の。乗
 り。より。幾。程。も。き。風。波。昇。來。て。既。に。危。窮。及。び。と。脱。免。れ。上。總。る。水。更。津。の。船

歌留^{うけと}。次の日^{つぎのひ}、那港口^{なみなと}に在^あ。只^{ただ}一個^{ひとつ}の伴當^{ばんどう}の病臥^{びやうふし}を陸^かに登^{のぼ}りて、其頭^{そのこしら}の客^{きやく}を店^{みせ}に留^{とど}め、順風^{じゆんぷう}とて、十二^{じふに}日の朝市^{あさいち}河^がを大^{おほ}江^え屋^やに赴^{おもむ}き、依介^{よけい}夫婦^{ふうふ}に對面^{たいめん}せり。親^{おや}兵衛^{べゐ}主^{しゅ}の往方^{かう}も知^しれ、那人^{あのひと}の數日^{あまのひ}那里^{そこ}に在^あ。結城^{むすき}の法會^{ほふゑ}も値^あん。十二^{じふに}日の朝未^{あさみ}明^{あけ}に立去^{たちさ}れと報^はれ、長談會^{ちやうだんゑ}話^わの時移^{ときうつ}り、東人^{あづま}夫婦^{ふうふ}も留^{とど}められ、只得^{せきとく}那里^{そこ}止^{とど}まり、宿^{しゆく}も昨日^{きのう}の船^{ふね}より依介^{よけい}高工^{たかう}門^{かど}に宿^{しゆく}まで送^{おく}られ、昨夜^{きのう}の堀^{ほり}の客店^{きやくてん}も明^あく七^{しち}里^りと走^{はし}り、未牌^{みはい}の時^{とき}候^{ころ}、這城^{このき}の下^{もと}に來^きぬ。大法師^{おほほうしやう}の巷^{ちやう}を知^しる。索難^{さくなん}々^々氣^きさ、脚^{あし}さ疲勞^{へいろう}をす、困^こり、憶^{おも}ひ、身^みをたれて喚^よれ。這便宜^{このひき}なるや、身^みの又^{また}幾^{いく}の間^ま、あ^あの地^ちに來^きぬ。大道徳^{だうだく}の逢^あひ、大士^{だいし}と來會^きせし、飲^のむと向^{むか}ひ、照文^{ていぶん}推禁^{すいかん}め、然^{しか}れど、且^{かつ}听^きぬ、我^{われ}も亦^{また}往^ゆる。十二^{じふに}日の夜^よ艾^あより、勁風^{きんぷう}劇^{げき}波^はに漂^あれて、船^{ふね}に找^{さが}す、危^{あや}うしと辛^{くる}き。十二^{じふに}日の下^{した}晡^ふ、武藏^{むさう}下總^{しもすま}の封疆^{ふうきやう}を、兩國^{ふくに}河^がに漕^こ入れ、風波^{ふうは}の心^{こころ}地^ぢに損^これ、我身^{われみ}安^{やす}らう、那河原^{あのがはら}を船^{ふね}の坐^ま。

席^{せき}を借^かりて臥^ふき、在^あ。その宵料^{やうりやう}を大^{おほ}江^え仁^にに相^あ逢^あひ、逢^あひて、隨^{したが}即^{すなは}館^{くわん}の御誼^{ごぎ}を傳^{つた}へ、御教書^{ごけいしよ}と遞^たへ、あ^あの故^{ゆゑ}の箇^か様^{やう}々^々、傳^{つた}へ、の時^{とき}宜^{よろ}し。親^{おや}兵衛^{べゐ}が二^{ふた}路^ろ人^{にん}、河^が鯉^こ佐^さ太^た郎^{らう}孝^{かう}嗣^しが事^{こと}、及^{および}靈^{れい}狐^こ政^{せい}木^きが事^{こと}、並^{なら}び孝^{かう}嗣^しが改^か名^なの心^{こころ}操^{そう}、又^{また}石^{いし}龜^{かめ}屋^や次^じ圓^{えん}太^たと、開^{ひら}か、角^{かく}觥^{かう}の弟^{てい}子^し鯉^こ三^{さん}が事^{こと}、又^{また}那^{あの}河^が原^{がはら}の使^し者^{しや}と、向^{むか}水^{みづ}五^ご十^{じふ}三^{さん}太^た弟^{てい}兄^{けい}並^{なら}び田^{でん}稅^{ぜい}と、か^かく、戸^こ賀^が九^く郎^{らう}逆^{さか}時^{とき}と、古^{ふる}屋^や八^{はち}郎^{らう}景^{けい}能^{のう}が、五^ご十^{じふ}三^{さん}太^た許^こ寓^{いう}居^ぐの事^{こと}、都^{みな}てそ^その日^ひの更^{さら}の顛^{てん}末^{まつ}一^{いつ}事^{こと}も漏^もれ、解^と示^して、却^{かえ}親^{おや}兵衛^{べゐ}は、是^{こゝろ}の便^{べん}宜^い、快^{かい}素^そ藤^{とう}と對^{たい}治^ちせん。十二^{じふに}日の曉^{あけ}天^{てん}は、逆^{さか}時^{とき}景^{けい}能^{のう}孝^{かう}嗣^し、次^じ圓^{えん}太^た鯉^こ三^{さん}と、照^{てい}文^{ぶん}が、親^{おや}兵衛^{べゐ}十^{じふ}名^なの内^{うち}、中^{なかつ}才^{さい}兩^{りやう}個^こと、借^かりて、那^{あの}五^ご十^{じふ}三^{さん}太^た素^そる吉^{きち}が、准^{じゆん}備^びの船^{ふね}に、乗^のりて、上^{うへ}總^{そう}と、投^なげ、漕^こ走^{そう}し、一^{いつ}事^{こと}の光^{ひかり}景^{けい}、今^{いま}見^みる像^{さう}も、做^{ぞう}と、其^{その}先^{さき}告^つげ、與^よ四^し郎^{らう}所^{ところ}、笑^{わら}局^{きよく}に、入^いりて、奇^き也^やと、感^{かん}嘆^{たん}を、登^{のぼ}り、照^{てい}文^{ぶん}又^{また}の空^{から}、然^{しか}れ、咱^{われ}們^らの、大^{おほ}江^えの船^{ふね}中^{なかつ}、河^が原^{がはら}を、目^め送^{おく}り、果^はし、更^{さら}に、去^さる、向^{むか}の、い、る、疾^{はや}立^{たち}去^さる、欲^ほする、宿^{しゆく}の、船^{ふね}公^{こう}管^{くわん}工^{こう}取^と牌^{はい}們^ら、前^{まへ}夜^よの、息^{いき}劇^{げき}、駭^{おど}ろ、と、

那地あたりに在る者なれば丹之辭せざて慌しくおてもんはなからて人の馬込留守とて。
 憶も天と明を程小艀公夫婦奴婢们まで那里より歎出てまう朝の炊や又時程りて。
 目ひと叩く分りて時候稍早飯とて果たる親兵と伴當们をりて却艀公別を。
 告大江並一一路人們の房錢までも送る還して千住の方へをたし藤へ穗北の御。
 主とて水垣夏約許立よめて七個の武士のものを問と思ひ甲斐なる不知案内の疎さ。
 十町許の過る始て人お問せよとて追ひ後へをめる悔い思へば且試み伴當を走。
 らて下りてせんとて咱們と以下の兵毎路働る茶店お惣ひて在り心利る伴の若。
 黨直塚紀二六と喚ゆる意表と示し使と課て水垣許遣けるお等とてまう半晌。
 ると紀二六等々を來て那里の動靜と報るやう小可那御士許赴れてお使のりて。
 言し。那七個の武士達の今も逗留するやと問試み知を答て左右まう事の害を報。
 べうもあつたけれ小可猜して毫も礙議せむ則里見の御内人なる蜷崎主の使うやと。

茂林中。中。締。拭。る。柴。門。と。那。精。舎。あ。る。れ。地。方。知。る。者。稀。る。れ。法。難。を。
 多。ん。遮。莫。城。下。の。西。の。約。莫。十。町。許。に。只。那。嘉。吉。の。古。戦。場。と。い。は。れ。る。
 紛。れ。あ。る。と。い。ふ。紀。三。の。果。て。走。り。か。つ。る。悠。々。と。う。ち。の。報。い。亦。復。言。
 便宜。と。い。ふ。悠。々。と。夜。の。糟。壁。る。客。店。明。々。の。日。早。旦。宿。ま。て。連。り。路。
 次。の。程。不。時。の。比。及。ふ。あ。の。地。来。着。し。件。の。嘉。吉。の。古。戦。場。と。い。は。れ。る。
 る。紛。れ。あ。る。と。い。ふ。既。中。て。誨。れ。る。茂。林。頭。来。り。程。料。一。個。の。法。師。の。遇。因。て。
 我。又。の。法。師。は。大。庵。と。同。試。し。法。師。答。て。開。い。這。里。上。の。遠。く。あ。る。樹。林。
 深。け。れ。迷。ひ。入。る。愚。僧。も。那。里。へ。の。這。方。へ。来。ま。せ。と。先。立。て。導。く。と。三。町。許。
 果。と。樹。林。の。間。あ。る。處。に。締。る。草。の。芽。あ。る。登。時。法。師。の。咱。們。を。さ。る。索。る。ふ。
 大。庵。の。則。這。里。で。は。る。の。咱。們。の。歩。を。早。め。て。我。と。近。く。飲。む。演。を。法。師。の。
 字。あ。る。船。と。樹。林。陰。入。る。と。あ。の。人。の。忽。地。と。え。ま。る。ふ。け。悠。々。と。咱。們。の。紀。三。の。呼。門。

あ。つ。找。入。る。縁。頼。の。障。子。の。間。に。あ。る。坐。席。の。才。九。尺。の。過。ぎ。前。面。六。尺。許。
 る。佛。壇。の。後。佛。の。中。央。一。個。の。地。炕。の。間。に。席。萬。五。枚。布。儲。け。庵。主。の。佛。
 壇。の。邊。の。端。坐。し。大。塚。大。山。大。川。大。田。大。飼。大。村。の。七。賢。士。面。識。り。る。も。識。り。
 る。も。左。右。二。側。の。坐。と。占。て。在。り。閑。談。爾。る。以。致。俱。の。咱。們。を。さ。る。と。あ。る。珍。と。
 なる。片。寄。て。席。と。讓。れ。る。登。時。咱。們。の。團。坐。入。り。大。川。大。阪。大。村。の。初。對。面。
 口。誼。互。に。疎。る。又。大。田。大。飼。の。之。就。中。大。塚。大。山。大。石。永。以。来。恙。り。る。再。會。
 祝。し。祝。され。却。今。番。當。精。舎。の。法。會。に。就。は。龍。田。稻。村。兩。館。の。御。代。者。を。仰。付。れ。る。参。
 向。の。事。の。顛。末。龍。田。の。老。侯。年。来。の。御。本。意。を。稱。せ。る。又。飲。の。趣。と。大。法。師。の。連。
 去。供。艱。の。時。日。と。向。ま。ど。う。公。私。の。話。説。及。び。け。主。客。の。喜。悅。の。事。も。あ。る。程。の。七。大。
 士。大。阪。大。山。の。復。讐。の。事。及。水。垣。残。三。夏。の。落。點。餘。之。七。有。種。の。素。生。義。俠。の。
 事。の。趣。又。河。鯉。守。如。る。子。孝。嗣。の。事。亦。賊。婦。船。虫。媼。内。の。事。善。惡。成。敗。箇。様。々。

倭々ふゆひにそる崖略と解示されて、大法師と共侶別後の動静と問れり。咱
們則大江の奇談那人富山老侯の危難と極いなり。その事の始より伏姫神の眞
助靈驗和殿夫婦兩個の娘婦達再生の天助善報兩個の孫三出生の奇異洪福又
那神餘満呂安西出来介復五郎九云郎南弥六隊八們が帰服の事而館の仁
政四家老の良佐言仍素藤が叛逆義通君の窮厄妖尼妙椿の幻術に至るまで都て
大江智勇大功君臣得失素藤と恩赦並に再叛の爲体且妙椿の幻術より親兵
衛と遠離る友同の事の趣清澄討むの大將を奉りて館山城を攻伐も全功の
たあざる事又友勝良十逸時景能們が浮沈の事南弥六出来介が戦死濱路姫の
二度の厄難と姫神擁護の示現の事館の疑ひ解させめては親兵衛を召か
し七個の天士們的在処を索めて来てと和殿と咱們的招會の兎使と命せられ自他の
去向と異ふて水路をいそぐ事の崖略約是までの數箇條の既和殿の知る如く

一事も漏さず告知し。さて又咱們的西國河原を大江に逢ひける宵の首尾孝嗣次園
太卿云事靈狐政本が奇特の忠告又向水五十二太素も古逸時景能們的來歴の箇
様々々倭々と解示大江素藤誅伐の御教書と賜て孝嗣並に次園太卿云逸
時景能們を相伴いての晩天五十三太素も吉が準備の快船うち乗て館山に投て
漕走し。その別路の終まで言詳告し。庵主は七個の天士く々嘆嘆と感
佩せざるのみ。大江の上和殿們的生死中お生れしける伏姫上の神恩灵感我君御
父子の賢明武徳と今やうち仰ぐ歎ひあまて感涙の找むと孰も覺ぬ事ぞ。歎唱
涯り多し。當下咱們的、大法師の兩館の御説と傳へ且七個の倭傑の御教書を處
與ふれば天士們俱お受載に。在下們的年來貴命を辭ひなり。一時至る故
るらん宿因齊一義兄弟のも是足せざる。あるある春に至りて大阪毛野に逢ふ
と七名まで聚令か。獨大江親兵衛が存亡死活を知り。るれば世に慨然涯りる

あふ。豈料んや。那神童。伏姫神の真助あり。昔。四郎。音。音。を。娘。們。さ。皆。他。の。守。
傳。多。六。松。富。山。養。れ。心。術。さ。身。長。さ。大。人。備。う。の。さ。る。君。侯。御。父。子。仕。へ。ま。
て。莫。大。の。功。あり。ん。思。ひ。多。多。柄。我。們。七。名。六。松。以。來。百。折。千。磨。の。窮。厄。艱。苦。成。
凌。迄。て。恙。多。う。い。皆。姫。神。の。真。助。あり。と。感。激。の。外。い。な。さ。る。方。ま。の。さ。り。い。ま。一。
介。の。功。あり。孰。う。九。歳。の。總。角。多。親。兵。衛。不。恥。さ。ん。や。开。明。君。の。垂。衣。の。さ。今。又。御。書。を。
賜。り。招。き。あ。つ。倒。面。目。似。て。面。伏。え。親。兵。衛。忠。仕。ら。ぬ。と。異。口。同。様。さ。ち。陪。話。と。咱。
們。听。け。尉。慰。め。然。る。宣。ひ。そ。窮。達。時。あり。采。辱。辱。達。あり。と。も。八。個。の。大。士。甲。乙。なり。と。
中。大。江。生。仁。字。の。王。と。い。ふ。甲。斐。一。仁。進。て。餘。の。七。名。道。達。を。ま。の。自。然。の。道。理。老。
侯。の。を。感。悟。あり。當。館。も。亦。御。同。意。を。今。大。士。と。い。ふ。さ。か。の。如。く。大。功。あり。八。犬。あ。つ。
取。合。さ。る。關。の。東。敵。あり。と。い。ふ。め。と。一。日。も。三。秋。の。異。る。と。い。ふ。の。を。思。ひ。の。さ。り。い。ま。
庵。主。も。俱。諫。め。蛭。崎。生。の。意。見。を。理。あり。松。僧。行。脚。二。十。餘。年。辛。く。と。忠。孝。七。

初。の。王。と。い。ふ。終。る。氣。も。尚。關。處。仁。の。一。王。大。江。の。在。外。を。知。り。の。さ。り。い。ま。歎。け。て。の。さ。り。
け。る。那。人。既。に。安。房。に。在。り。松。僧。他。の。導。き。も。伏。姫。神。の。引。接。を。君。の。御。用。の。達。た。
る。我。お。て。さ。り。い。異。る。と。い。ふ。理。あり。と。推。さ。る。素。是。分。身。同。因。果。る。八。士。の。前。後。輕。
重。あ。ん。や。开。明。の。功。あり。と。い。ふ。さ。か。の。如。く。大。功。の。賞。と。い。ふ。さ。か。の。如。く。大。功。の。賞。と。い。ふ。
主。の。さ。り。い。な。さ。る。敵。の。反。回。中。ら。れ。て。遠。く。他。御。退。け。れ。一。旦。孤。客。と。り。一。日。の。始。り。と。功。
を。あ。つ。さ。る。と。い。ふ。思。ひ。の。さ。り。い。ま。君。侯。の。疑。心。解。け。る。と。い。ふ。さ。か。の。如。く。大。功。の。賞。と。い。ふ。
伏。姫。各。々。と。屋。速。平。造。化。の。默。契。あり。の。如。く。人。智。の。量。り。な。さ。る。と。い。ふ。さ。か。の。如。く。大。功。の。賞。と。い。ふ。
と。と。論。せ。七。大。忽。地。胸。豁。け。俱。微。笑。て。現。術。て。り。あ。ま。り。親。兵。衛。が。大。功。は。我。
們。の。用。の。さ。り。い。ま。推。並。て。虎。名。の。勇。士。と。い。ふ。の。さ。り。い。ま。意。の。さ。り。い。ま。這。回。も。親。兵。衛。の。復。素。藤。を。
生。拘。り。館。山。の。城。を。拔。く。と。い。ふ。の。さ。り。い。ま。俱。親。を。改。め。諛。意。を。承。り。の。さ。り。い。ま。法。會。果。を。道。
徳。俱。と。安。房。の。年。來。の。恩。招。と。謝。し。な。さ。る。今。や。仔。細。に。さ。り。い。ま。齊。一。畏。の。を。

定珍重と祝と具告する。長談脩話を長と思ひ耳を敬け。與四郎屋敷點
頭。听果て親を更ぬ且飲ひ演る。言腐爛くいふ。今番大古招會の死使を命せ
られ。死身在下るもの。死身の國王諸弟の御家臣在下の亦道郎の舊僕。新
故。卑の差るる。且死身の年來大古招會をせん。水火を避け。諸國を偏歴
度。泊り。這回在下先。大江も逢ひ六十六。大古御説を信。死身の才御代會
一役。本意。事皆序次。階級。是も亦伏姫神の神謀。在下
死使。奉り。大江。逢ひ。死身後。大古。會。い。も。死。使。に
異。道郎。相。安。房。還。此。上。望。足。謙。退。誠。心。照。文
連。感。嘆。餘。談。及。び。浩。外。信。乃。道。郎。莊。小。野。大。角。現。八。小。文。吾。の。七
大。共。侶。の。階。子。徐。登。齊。二。坐。席。入。折。道。郎。の。逸。早。與。四。郎。を
死。の。世。四。郎。飲。恙。も。好。不。多。れ。幾。も。向。照。文。揖。讓。と。信。乃。們。集。

坐とられ。餘の天士信乃莊介現八と小文吾の荒茅山を相識。い。認。ら。ぬ。毛。野
大角も焼雪と雪より。是。の。再。會。の。情。義。を。演。或。初。對。面。の。飲。ひ。を。行。な。せ。
る。與。四。郎。の。額。衝。應。て。坐。感。涙。の。我。も。覺。照。文。を。そ。の。意。を。猜。し。先。道。郎。們。の
悠々。與。四。郎。の。亦。水。路。を。風。波。の。障。り。あり。却。市。河。赴。て。依。介。夫婦。親。兵。衛。去。向。を
あ。地。と。雪。の。路。次。を。そ。の。末。あ。け。照。文。を。そ。の。招。き。大。士。們。と。俱。旅。宿。事。の。趣
又。親。兵。衛。の。解。示。條。々。王。れ。道。郎。餘。の。大。士。們。の。便。宜。飲。ひ。の。登。時
與。四。郎。の。頭。と。拾。て。恭。き。先。道。郎。の。朝。ひ。絶。て。久。見。參。あ。恙。も。あ。ら。ぬ。と。い。ふ。
飲。ひ。短。詞。の。聲。を。う。め。小。可。音。音。而。個。の。媳。婦。們。が。再。生。の。吉。の。趣。の。登。崎。主
告。の。知。召。れ。あ。ら。ぬ。言。省。け。左。の。右。の。伏。姫。神。の。眞。助。の。生。る。身。の。幸。思
ふ。の。只。心。苦。の。君。先。を。り。富。山。を。平。始。の。料。の。國。主。御。父。見。參。入。り。な
て。御。持。持。の。下。召。措。れ。刺。今。番。登。崎。主。共。侶。傳。大。事。の。死。使。奉。り。ひ。の。御。説。

やせ馬の過る荷役の高き猶も重なる厳命の免れなき故大江腰子俱七
の瘦馬の過る荷役の高き猶も重なる厳命の免れなき故大江腰子俱七
世の那日より數多なる我通稱の世四郎の世と改め與四郎と喚れぬと惶も君
が名衆與の與の二字と賜り心操を以て侍れ君が御名代か身の逸早く安房の在り世
四郎と名君の一字と戴く名頭と故と改め愚僕が本性のそを饒さぬか
いそと繰返も道節の感嘆して通愛を忠義の用心我の一字の所を儘え
その左右ものゝき同く與四郎の與を改め代の字の倣ふ即我の代の義あり又與の字も
捨てる今よりて姥雪代四郎與と名を告るわが保の則緒平の緒と這那同訓の共
昔とをいふその誠心と後々も識者示はるる後々も今より我の和老の里見殿
仕まれば朋輩と況我の八名と招きある副使と雪け上座を置該れも御説並御教書
星表の蜚崎生の傳賜と美し後々も今又席の高低と論ぜぬとあへて蜚崎主馬國の
折の美しと西館の免執成と願ふとるまは與四郎の面目の身餘る感涙を復禁

めあへて照文とれをうけての趣誠の介と都てあるものと心せられ六太士們も果斷愛へて
道節が意見と好とを諾るは然る是と與四郎の通稱の字と改め姥雪代四郎與保
名告るの道節と主僕との儀と失は親兵衛並餘の太士もいそも敬ひり却この
折小文吾の代四郎を慰め荒芽山と曳の道節と赴失ひ折の又親兵衛と他一家
六槍富山の神の加護する隨ふ云云といふおれは莊介の次男たる者嗣の舊と語の新
言の交り果しあるを信乃の制め道節と俱照文を告る我々今日も大庵を赴は
庵主の勤行暇ある折は一霎時相譚ひつち聴いと思議のゆゑ知る如く大法
師の今番の法事と他の施主と求む又當地の寺院の報て宗門の補助と借んと欲す只是獨
坐一念の稱名看經の外他事より昨日の黄昏時候の年子有餘る法師の徒係八
九名と従へ来て大法師は談をせし拙僧は這結城を其甲の院の住持と聞ふ庵主の言
言のむ？當城没落の折戦殺ある大將士平幾方の忠義の靈魂菩提の與ふ春よりて



大入

八代傳九郎卷十七

九

文溪堂藏

と云ふ那法師の布施を、残る千金と分ちて千金と施米の價を遣。千金錢を米
も錢も明の朝辰牌の、大庵を建て、那庵のある地方、町寧の誨を、
金子を受令する実を寫し、蘭て俱の宿所へ退り、當下又照文、
好い、退近を知せ、詣來る、
寫さる人、
條を路備る樹の幹を、
出せと誂え、又焼香の折用を、
夜負短くて寝る間、
僕駄店と立、大庵を赴け、畢竟金碗、大法師、
結願供養、
南總里見八犬傳第九輯卷之十七終

